

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月14日（金）

1 今年度の重点目標

人とかかわりの中で自らの良さに気づき未来を築いていこうとする子どもの育成 ～「子どもの声を聴く」を大切に～

2 今年度の経営方針

拓北小の子どもたちを豊かに育むための9つの課題

- ①「子どもの声を聴く」ことを大切にする ②学ぶ力の育成 ③豊かな心の育成 ④健やかな体の育成
⑤「さっぽろっ子自治的な活動」の推進 ⑥子どもの発達への支援 ⑦「札幌っていいな」と思える教育
⑧家庭や地域とともにある学校づくり ⑨小中一貫した教育

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学 ぶ 力 の 育 成	子どもが課題をもち、自ら考え判断し、自ら学び方を身に付け選択しながら、主体的に学ぶための教材研究、授業改善、環境整備に努めた。	A	「主体的な学習者を育てる」という学校経営方針重点の具現化に向け、子どもも教職員も、自ら考え、判断し、トライし、次に向けて改善する、というサイクルを大切にする。もちろん学ぶ環境の基盤として、望ましい学習環境、学習規律、他者意識、相互承認を身に付けていく必要がある。また、教職員間の情報共有、実践交流を活発にし、授業力を高めていく。	A	A
	個別指導や少人数指導など指導法を工夫し、基礎的・基本的な知識・理解及び技能の習得に努めた。	A	子ども自身で学びを深めていくためには、自分で学び方を身に付け、選択していくことが必要になる。教師の個別の関わりによって更に学びを深めていけるようにしていきたい。また、実物投影機などの視覚的な手だて、ドリルの採択の統一など、一貫性のある「分かりやすく教える」という手だてを学校全体に浸透させることに注力する。	A	A
	課題探究的な学習を通して思考力・判断力・表現力を育む指導を充実させ、学力を活かす力の育成に努めた。	B	子どもが自分の表現する方法は多様にある。子ども一人一人にあった表現方法、子ども自らが選択して学習していけるような授業改善を更に進めていく。次年度も課題探究的な学習の実現に向けた授業改善、情報共有を進める。	B	A
	学習準備、個の解決の時間や交流場面の取組など、発達段階に応じた学習態度を身に付けることができるように努めた。	A	「話し方・きき方」「時間」「机上整理」については指導し、学習の基盤を築き、積み重ねていくための手だてを講じていく。特に、「話し方・きき方」については、発達段階に応じた掲示物を作成し、子ども自身が見て分かるようにし、学びの土台を段階的に示すようにしていく。	A	A
	子どもが自ら考え行動する、主体的な学びを実現するために、効果的に ICT を授業に取り入れることができた。	A	今後も、主体的な学習者を育てる目的に向かって、教育課程全般にて、ICT を積極的に使って学びの場を創出していきたい。本校における Chromebook 使用のルールについて、教育情勢や本校の子どもたちの育ちに照らし合わせながら、見直しを図っていく。設定したルールについては、子ども自身が分かるように共有し、徹底を図っていく。	A	A

	見通しをもって予習したり、学習したことを振り返って復習したりする家庭での学習習慣を確立する指導に努めている。	B	Chromebook の平日持ち帰りを進めたことは、子どもの学びにとって大きな意義があった。次年度以降も継続し、更に学校と家庭の学びの連携を図る。学び方の指導を行っていき、子どもに目標をもたせ、家庭での学習と普段の授業をつなげることで、自主的に取り組む意欲を高めていく。	B	A
学校関係者評価委員会 による意見		・全国学力調査(6年生対象)結果を見ました。学習指導要領の領域・内容において、教科(国語・算数)で全国平均よりも下回っている領域が気になりました。一概にこの全国学力検査だけで児童一人一人を評価するものではないと思うのですが、日々の学習単位を通して、それぞれの学年での単元テスト、自宅学習での復習や予習(自主学習)などを通して、担任の先生方は児童一人一人の進捗状況を把握されながら、授業でも改善し教えてくださっていると思います。中には、そこまで到達できずに理解できないまま先に進んでしまうところが心配でもあります。他の学年含め、先生方の限られた勤務時間の中で、一人でも多くの児童に少しの時間でも振り返る(見直す)手助けがあるとよいです。学校訪問した際、学級の様子を見させていただいていますが、拓北小の先生方は学習指導を通して、明るく楽しい学級経営を行ってくださっていると感じています。 ・1～6年生に共通ドリルを使用することなど、更に子どもたちに「分かりやすく教える」方法を探ってもらいたいです。子ども一人一人の成長には差があり、大変だと思いますが、個人に合った学習方法を提供してほしいと思います。 ・教材研究のための時間の確保が満たされる「働き方改革」が望まれます。(行政改革) ・課題解決学習の取組に、高く評価します。 ・「主体的な学習者」を育成するという視点は、生涯を通じて重要なことであろう。自身で見付けた課題を、自力でもしくは他者と協力して解決できるようになれば素晴らしいことである。そのためには、日々の授業が基盤となろう。教員同士の授業力を向上させるためにも、各自の授業の工夫を交流し、点検し合う機会を継続的に維持してほしい。			

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
豊かな心の育成	朝の読書の時間などを通して、本に親しもうとする気持ちを育てている。	C	本を読むことに積極的ではない子どもたちも本を手取る機会をつくるため、図書室のレイアウトやポップ、おすすめ本など、更新していく。学級図書の配置や朝読書の活用、読み聞かせ、調べ学習での利用など、本に親しむ活動や教科学習と関連付けた図書館利活用の推進を進める。	C	B
	挨拶や場に応じた行動が身に付くように努めている。	A	教職員が自分から挨拶をして子どもたちに手本を見せていくこと、子どものすばらしい挨拶の姿は学級・学年関係なく積極的に褒めていくこと、挨拶目標などを活用しながら挨拶のよさや意義を何度も子どもたちに伝え続けていくことを、大切にしている。また、次年度も委員会を中心に、子どもからも挨拶のよさを広められる活動を行っていく。	A	A
	学校行事、係・当番、委員会活動等を通して自分の役割をしっかりと果たし、友達と協力し合う態度を育む指導を行っている。	A	『さっぽろっ子自治的な活動』の取組を基盤に、次年度以降も6年生を中心に、子どもが学校づくりをしていけるように、一人一人の願いを聞き、価値付けをし、取組に対する肯定感を高めていけるように、教職	A	A

			員一丸となって支援していく。また、行事を通して、「子どもの育ち」「協力する姿」「子ども同士の成長を認め合う」ことなど、これまで積み上げたものを生かしつつ、「子どもの育ち」を軸として、計画、実施していく。		
	児童が人との関わりの中で、喜びや意義を感じられるような指導を行っている。	B	どの子も活動の中で役割を担うことの楽しさ、学年の垣根を越えて仲を深めるよさなどを感じられるように、グループを担当する教員の丁寧な関わりや一人一人の様子を細やかに見取ることがより大切にしてい く。更なる他者意識の深まりを生み出すために、全学年の縦割り活動も取り入れていく。	B	A
	教育活動全体を通じて生命を尊重する心、自他の心を大切に する態度の育成の充実を図 っている。	A	次年度は、全校統一した指導の機会を設ける。全校朝会に位置付けたり、動画にしたりする方法などが考えられる。内容としては特に、いじめの未然防止について、「いじめを起こさない、いじめをそのままにしない」ための心掛けを全校に指導したい。	A	A
学校関係者評価委員会 による意見			・先日、評議員会でもお話ししましたが、本当に子どもたちは、「学校に行くことが好きなんだなあ。」「学校が一番楽しい場所なんだなあ。」と、6年生を送る会を参観し、児童一人一人の顔や感謝の言葉を聞いて、嬉しく感動しました。子どもたちは、入学した6年前のあの日から一步一步、そして、大きく「豊かな心」を育てていると感じました。 ・拓北小は、正面玄関から入ってすぐに生き物（亀や魚）を飼育されていることは、とてもよいことだと私は思います。私たちの子どもの頃は、学校でウサギやヤギを飼育し、小規模の学校では、ニワトリを飼育していました。人間に限らず、他の動物（生き物）をみんなで育て、生と死に関わることで、児童自ら「生命を尊重する心」「自他の心を大切にする」育成が自然と育まれ、子ども間や大人間の世界から「いじめ」がなくなしてほしいと願います。 ・評議員会の中でもお話しさせてもらいましたが、まずは本を手にとるところからはじめてみるのもよいかと思います。 ・活字に親しむ（国語）事と、家庭環境も大きいと思う。 ・「いじめ対策」は、担任の「視る眼」と「聴く耳」の訓練（直視）する勇気が望まれる。「対話と信頼関係」 ・IT機器の活用がどれほど進んでも、読書によって得た知見が学習の基礎となり、時には人生の指針となることは変わらないだろう。教員や児童が読んでおもしろいと感じた本について発表する場（例えば、読書感想文発表会のような）を設けるなど、引き続き読書に親しむ児童が少しでも増えるような指導を切に願う。あいの里地区センターの図書室との連携や、札幌市電子図書館の利用も考慮されてはいかがだろうか。		

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
健やかな体の	運動や外遊びなどを行っていますか。	B	外遊び、室内での運動の機会を設けていく。子どもたちが楽しんで体を動かせる遊び方の仕掛けなども検討する。	B	A
	自分で遊びの時間や勉強時間、寝る時間などを考えて規則正しい生活ができていますか。	C	規則正しい生活をするためのよさや家での声掛けの大切さを長期休みの前に学年便りなどで発信していく。また、学校では時間を守って生活することやハンカチ・ティッシュを持ち歩くことをまずは徹底して指導していく。	C	B

育成	自分の健康を考えて、好き嫌いせずに食べることができていますか。	B	健康と食事について、家庭で話題になることが少ないのではと予測される。今後も家庭に向けて、試食会や、ホームページ、お便りなどで引き続き、食事と健康の大切さや食育の様子などを発信していきたい。	B	A
学校関係者評価委員会 による意見		・「健やかな体」をつくる。体育授業以外に、朝の活動や中休み時間、さらには学級の時間など、学校の方でも日々取り組んでくださっていると思いますが、先生方もお忙しいことと思います。また、限られていると感じます。今、全国の小中学校で取り組まれている一環として、「コミュニティスクール」の実施。まず第一に、「運動やスポーツが好きである。体育は楽しい。」という、子ども自らが感じる事が大切では。運動やスポーツを通して、地域資源を活用し、学校内外のカリキュラムに取り入れる。教育大学生や地域内の高校の生徒さんや、地域の人材と一緒に関わる、つながることで「児童を育てる学校」、学校と地域が結び付くことで、体力の増進、健やかな体の育成へと更につながっていくのでは。健康を維持するには、何より食事が大切。食べることが一番です。栄養教諭や養護教諭を中心に、学校、家庭が連携を図り、食生活においても常に関わっていくことが重要と感じる。 ・家庭での生活習慣も多様なため、規則正しい生活の大切さを親子で学べる機会があるとよいと思います。 ・子どもと心の奥底から交流するための時間の確保が課題となると思います（これも働き方改革から生まれる時間の確保と思われる）。教師の意欲があっても実行できないもどかしさを感じます。 ・雪中運動会のような、教員と児童が共に体を動かす時間が増したことは、評価できる。今後とも、児童と教員が、室内でできるゲームなどを工夫する必要があるだろう。また、規則正しい生活習慣を身に付けるためには、家庭のみならず、養護・栄養教諭との連携が不可欠であろう。			

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
信頼される学校の創造	休み時間の見守りや登下校時の交通安全指導、避難訓練等での子どもの危機回避意識の強化など、健康で安全・安心な学校生活の充実に努めている。	A	ICTを活用した事前指導は効果的であった。次年度も継続しつつ、子どもが避難訓練の必要性を実感し、有事の際に実効性があるよう、計画・実施していく。また、繰り返し、「自分の命は自分で守ること」の大切さやその方法について指導していく。	A	A
	学級懇談・教育相談の工夫、お便りやホームページの充実など、教育姿勢や方針を保護者や地域に伝えるように努めている。	A	今後も、学校HPの充実を図り、積極的な情報公開していきたい。学校発出文書の一部すぐる化は次年度も継続する。また、教育相談を1回増やし、年2回にする。1回目を年度の最初に実施することで、より児童について保護者と共通理解を図ることができる。更なる子ども理解や指導、支援につなげていく。	A	A
	子ども一人一人の話を耳を傾け、保護者や地域、他校種や関係機関との連携を図り、子ども理解と円滑な接続、いじめ防止に努めている。	B	全市で取り組んでいる11月の調査に加え、次年度は、1学期と3学期にも、学校独自調査を行いたいと考えている。「早期発見」のチャンスを作ることで、定期的な聞き取り機会があることで、低学年の聞き取りでありがちな「いやなことをされたけれど、詳しくは忘れてしまった」を減らすこともできる。子どもや保護者の視点に立つと、声を発する機会が増えることにもなる。「声を聞く」ことが、結果として学校や担任の信頼に繋がり、子どもを守る	B	A

		ことになる。このことと、未然防止の取組を充実させることを両輪にして、「いじめ見逃しゼロ」を推進していきたい。		
学校関係者評価委員会 による意見		・校長先生、教頭先生はじめ、諸先生方の、児童一人一人を大切に思い、学校生活を通して、学習だけでなく、成長段階に応じて個の主体性を導く指導・支援を行ってくださっていることに嬉しく思います。未来ある子どもらの成長において、「学校・家庭・地域」は不可欠です。「学校に行けば楽しい。」と子ども自らが思える場所であることを、親としてこれからも応援していきたいです。 ・いじめは、学校だけでなく、外でもあることもあるので、いつでも先生や親に相談、話すことが大切なので、「声に出すこと」を勇気をもって行うことを教えてほしいと思います。いじめられた人も、いじめを見た人も、どちらも勇気が必要となるので、その後のケアを大切にしてください。 ・「楽しい学校生活」の基本となる項目と思われます。いじめ、学習意欲、信頼関係の全てに通ずることが評価されていると思われます。 ・「悩みやいじめに関する調査」を拓北小学校独自に、年2回、1・3学期に実施することは大きな意義があると考えられる。普段は発言の少ない、あるいは発表することが不得手の児童の考えや思いを汲み取ることができるような調査であってほしい。		